

ニュースレター **BEYOND** ビヨンド 08 クリスマス号

●発行日 2008年12月7日 ●発行者 西郷純一 ●第21号 ●News Letter for WAJC/JCCCW/WWJM/西郷を支える会

ほ・ん・も・の

●私が、姉に連れられて開拓間もない久我山宣教会に初めて足を踏み入れた頃、数名の臨時の応援者を加えても、礼拝出席者が10名にも満たない小さな「家(民家)」の教会であった。●その後、数年を経て、当時大学生であった家内が、その教会に集い始めた頃も、教会は、まだ、やっと20名を越える程度の大きさであった。●しかし、その頃から、若い人を中心に毎年礼拝出席者が、平均10名づつと言う、当時としては、急速な伸びを示し、70名ほどになったとき、念願であった「会堂建設」を果たし、やがて100名規模の教会となった。●それは、私たちが、同教会で9年ほど副牧師として働かせて頂いた後、研修のために米国での留学を志す少し前のことであった。

●思い出すと、その頃であった。主任牧師であり、私たちにとっては霊的な大恩師であった中原幸茂師が、しばしば、個人的に、また時には、講壇の上からさえ、言われてはばからないことがあった。それは、「一体、この教会に集まっている人々の何人が、今、日本に戦時中のような政府による信仰の弾圧が起こったとして、それでも信仰を捨てずに残るだろうか?」「私は、大きな教会を作りたいと思っていない(筆者註:現に、中原牧師は昔から、特別集会の時は勿論、年間の目標としても、「何人教会」「何人救われるか」等々、「人数」の目標を立てることを好まなかった。私は結構それに逆らったような気がするが・・・)。私は、むしろ、いつの日か、神の前に立つとき、私の生涯のご奉仕を通して、たった一人でも、迫害があろうと無かろうと、得をしても損をしても、どんなときでも、変わらず、私心私欲なく、『本物の』信仰をもって、聖いキリストの花嫁として立つ、そんな人が起こされること、それだけを願っている」と言う主旨のことであった。(p.4に続く→→→)

(以下、本文中NY=ニューヨーク、NJ=ニュージャージー、WAJC=私たちの教会)

春の日本宣教旅行報告 5月26日~6月14日

●5月26日(月)ワシントン発。翌27日(火)午後成田着。夕方新宿にて、旧友遠藤賢一兄の出迎えを受け、東京保谷市にある同兄宅でのご夫人、また母上との交わり。●翌朝、



同地から羽田へ。昼過ぎの便で熊本へ。同飛行場で光岡史人兄の父上のお出迎えを頂き、ご夫妻と共に、今年初めて亡くなられた同氏のご両親のお墓

に(写真上)。夕食前にワシントンでお交わりのあった阿南さんご一家を訪ねた。夕食後は、同じくワシントンから帰国された田宮貞宏氏が二人のお子様を同伴で(生憎、奥様は健康を損ねてご同行頂けなかった)、わざわざ雨の中1時間のドライブをして、光岡家を訪ねて下さり、交わりが許された。●翌朝、29(木)、熊本を後にして広島へ。広島ではNY時代の加藤(義幸・旧姓田上稚佳子夫妻)ご一家、またプリンストンの栗栖牧師のご両親、更に、ワシントンでお交わりの



阿南家



田宮家



加藤家

を訪れ、共に喜び、
ができたことに感謝(写真上・右)。夕方、九州佐賀に戻り、同地に単身赴任しておられる川島宏一兄との交わり。●翌早朝、川島兄と御言葉を聞いて祈るひと時を持つ。佐賀駅まで送って頂き小倉駅へ。駅まで河内大明ご夫妻(前号でもご紹介したキーン昭子さんの長兄で、北大初代総長佐藤昌介氏の曾孫に当たられる)が、わざわざお出向き下さり、しばしの交わり。昼過ぎに京都着。ニューライフ教会の杉野姉にお出迎え頂き同姉宅へ。夕方まで、同姉がアレンジしてくださった数名の信徒の方々とのお交わり。夜は、ニューライフ教会のもう一人のメンバー赤松姉宅で、同教会の牧師豊田先生もお出でくださっての家庭集会。昨年、日本に戻られた的場聖明・弥生ご夫妻も出席され、ご一緒できたことは感謝。



的場夫妻とゆうみちゃん

●翌朝、大阪のコイノニア教会の平田姉との交わり、赤松家を失礼し京都駅へ。同駅で、前述の豊田師との交わり、その後、大阪から来てくださった鈴木弥生姉との10年ぶりの再会と交わり。昼過ぎに京都駅を出発、夕方秋田着。いつものように中野渡先生ご夫妻の出迎えを頂き、秋田教会へ。●6月1日(日)、早朝7時と10時半からの礼拝でご奉仕。数名の方々との個人的な祈りのひと時の後、同教会のランチ「象潟キリスト教会」(山形県との県境)へ、佐藤牧師夫妻と共に向う。礼拝のご奉仕を終えて、夕方、再び秋田教会へ戻り、多くの献身者の方々と共に夕食を頂く。●翌月曜日、昼過ぎに秋田を発って、東京の井上薫先生ご夫妻のお宅へ。●火曜日早8時、井上先生宅に塩澤夫妻がお迎えくださり、一路群馬県の「富弘美術館」へ。富弘さんの作品を久しぶりに新しい感動をもって鑑賞させて頂いた後、富弘さんのお宅へ。初めてご夫妻とお会いする機会



富弘夫妻と

を頂いた。富弘兄は、折りしも台風が近づき、気圧の関係で体調が優れない中、2時間半もの時間を割いてくださった。写真を見ながらNY展での思い出等を語り合いつつ、いつの日か、「ワシントンでも・・・」と言う祈りをもってお別れした。夕方、前橋宣教会の住谷先生と信徒の今野兄と面会。●翌朝、前橋を発って、東京の井上薫師宅へ。お昼を頂いて、すぐに、出身団体である日本宣教会の主管、代田教会牧師相田師夫妻を訪問。その後、千葉県佐倉市に住まれるNY時代の酒井家を訪ねた。同家で、光岡兄とも再会(同兄は、熊本での学びを終えて、現在、千葉県の東京キリスト教大学で学んでおられる)。夕食の後、皆でライオンズ教団成田福音教会へ。同教会の水曜礼拝でのメッセージのご奉仕。●翌木曜日早朝、酒井家を出発し、栃木県小山駅で旧友の井川夫妻の出迎えを頂き、佐野市に二人が始められたレインボーチャーチの祈禱会でご奉仕。



神林一家

お昼の交わりの後、茨城の土浦方面に向う。NY時代の神林みさお姉、ご主人、お子様たちと同家でお交わりをする。更に、同姉が通う自由が丘恵み教会で阿部牧師夫妻との

お交わりが許される。夕方、ワシントンで信仰を共にした川島家へ。光子姉、侑人君、郷子さんと再会(二人のお子さんたちは教会から少し足が遠のいている様子。要祈祷)。

●翌金曜日、早朝同家を出発し、東京経由で名古屋へ10時着。前述の北大初代総長佐藤昌介氏の曾孫のお一人加瀬ご夫妻(写真右)と、お昼



若林姉と

をご馳走になりつつ、しばしの交わり。その後、大阪駅で、再び鈴木弥生さんと面会。午後3時半新神戸駅で、わざわざこのために、高知から出てきてくださった若林素子姉と久しぶりの再会。夕方、ジョナサン&ケンドラ・コール夫妻のお宅へ。夕食と交わり、そして、私たちの働きのために共に祈るひと時をもって下さった。



コール夫妻

●翌朝、再び同夫妻としばしのお交わりの後、10時に同家を出発。午後2時、淀橋教会(東京)着。2時半から同教会にてNY、NJ、ワシントンDCにおけるミニストリーで交わりのあった方々で、東京近郊に住む方々を中心に「リユニオン」の集会を持ち、35名ほどの方々が集まった(写真左)。集会後、鈴木詩織姉と高橋陽子姉と夕食・交わりのとき。夜、再び井上薫師のお宅に戻る。●翌6月8日(日)、早朝同家を出発。8時半小田原駅着。野木朗先生(料理伝道でも有名)のお迎えで南足柄キリスト福音教会へ。10時半からの礼拝でご奉仕する。先生が腕を振るって作って下さった昼食を頂き、午後の宣教集会で再びご奉仕。集会後、赤ちゃんのいる若いカップルが、御心なら米国で私たちと共に主のために労したい献身の意を表された。御心になるよう共に祈る。夜は、男性役員の方々と夕食会。●翌日は、少しゆっくり

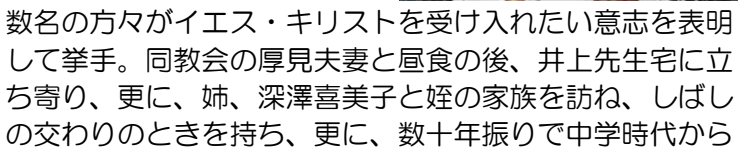


させて頂き、野木先生と小田原の温泉で午後遅くまで楽しませて頂いた。夕方近くに小田原を出て横浜へ。マグダラのマリヤの「ひとり芝居」で有名な麻生瑛子・刈田範博先生ご夫妻のお宅に伺い、久しぶりのお交わり。来年に再び米国東海岸の公演ができればと祈りつつお別れする。夜遅く井上薫師宅へ。●翌朝、同家を発って同盟中野教会(石川弘司牧師)付属幼稚園のお母様方を対象にした伝道会での



南足柄教会での礼拝

ご奉仕(今回で3回目、写真右)。数名の方々がイエス・キリストを受け入れたい意志を表明して挙手。同教会の厚見夫妻と昼食の後、井上先生宅に立ち寄り、更に、姉、深澤喜美子と姪の家族を訪ね、しばしの交わりのときを持ち、更に、数十年振りで中学時代からの旧友を訪ねて後、池袋へ。かつてワシントンにおられた(現在プリンストン)朝日陽子姉の母上が、所属教会である池袋教会の塚本牧師との夕食にお招き下さり、お交わりの機会が与えられる。夜蒲田のホテルへ。●翌朝、午前7時羽田発で札幌へ。東野史裕氏のお迎えで、札幌西福音キ



リスト教会へ。午前10時と昼食を挟んで午後の集会でご奉仕。集会後、同教会の新任牧師沈(シム)先生と、今後の宣教協力について話す機会を頂く。その後シム先生の案内で、同教会の前任牧師、相馬剛先生の新しい開拓教会「平和の福音教会」を訪ねる。夜は東野家で木澤母子と共に会食。●翌12日(木)、朝、大塚兄妹のお迎えを頂き、同兄妹が出席しておられる厚別教会の「アーモンド会」と

リスト教会へ。午前10時と昼食を挟んで午後の集会でご奉仕。集会後、同教会の新任牧師沈(シム)先生と、今後の宣教協力について話す機会を頂く。その後シム先生の案内で、同教会の前任牧師、相馬剛先生の新しい開拓教会「平和の福音教会」を訪ねる。夜は東野家で木澤母子と共に会食。●翌12日(木)、朝、大塚兄妹のお迎えを頂き、同兄妹が出席しておられる厚別教会の「アーモンド会」と



札幌西福音教会



アーモンド会

という障害を持つ子どもの親御さん方を中心とした家庭集会でご奉仕。午後、同兄妹が以前に通っておられたイム、マヌエル札幌教会(渡辺昇・宣子牧師：西郷も以前から存じ上げ、お交わりのあった教会でもある)の新会堂建設を祝うべくお訪ねする。夕方からは、大塚夫妻、東野夫妻が、定山溪温泉にご招待くださり、共に一夜のくつろいだお交わりを楽しませて頂いた。●翌朝、同温泉を出発し、再び札幌へ。東野ご夫妻の案内で、前述の北大初代総長佐藤昌介氏の資料を更に調べたく同大学を訪ねる(因みに、東野氏、大塚兄は、同大学で教鞭を取っておられる。その後忘れ物を取りに、札幌西福音教会をに立ち寄った際、図らずも、Hi-BAの仕事で来ていた鈴木ポール宣教師と数年ぶりの再会(写真右下)。夜は、東野家、大塚家と共に最後の食事と交わり。●翌6月14日(土)朝6時半、同家を出発し大塚兄の運転で札幌千歳空港へ。同日成田を発って、無事帰米。



定山溪温泉



ポールと

戸部和江姉の受洗



小生の春の訪日直前、5月25日(日)に、いつものようにダーウッド・ライアンス教会の洗礼槽をお借りして、戸部和江姉が、教会の多くの兄妹から祝福を祈られつつ受洗された。ハレルヤ!! 同姉は、来年の夏ごろには帰国される予定であるが、続いて同姉の今後のクリスチャンとしての成長のためにお祈り頂きたい。

08夏期学校



今年も「子ども夏期学校」が、8月20(水)~22(金)日まで持たれた。●今年は、早々とワイルドマン裕子姉が、責任をもって準備を進め

ることを名乗り出してくださり、いつもとは一味違う滑り出しであった。●更には、目標として、「夏期学校だけで終わらずに、秋からも、毎週の日曜学校に出席する子どもたちが残ること、更には、その父母の中から、日曜礼拝に出席する方々が起こされること」を明確に掲げた(昨年は、子どもの参加者が65名近くもあったが、その中から一人も新たに日曜学校に集う子どもは起こされなかった)。●そのために、今年は、いくつかの新しい試みがなされた。(1)子どもたちの両親いずれかが1日以上奉仕することを参加条件にした。以前にも触れたが、米国での子どもの教会への参加は、車社会であることもあり、親の協力なしには不可能である。その意味で、これは、父母の協力度を、参加する前からある程度問うものであり、また、奉仕に参加



ランチ準備の奉仕

して頂いている間に、ご両親とも親しくなり、フォローアップへと繋いで行く目的もあった。更に、今年は、(2)プログラムにゆとりを与えるために、これまで昼前までのプログラムであったが、昼食つきで午後1時過ぎまでとした。また、(3)プログラムの効果を上げるために、4才以上と言う参加者の年齢規定を厳格に守り、その代わりに3才以下の子どものためには、ナーサリーを設けて、本プログラムとは



クラフト

分けた。ボランティアの父母の方々には、これら昼食の準備(毎日70名分ほど)、ナーサリーの奉仕、また、団体ゲーム、会場の装飾等を主に担当していただいた。更に、(4)今年初めて、アメリカでVBSと呼ばれる夏期学校プログラムの既成品のキットを購入し、様々なアイデアを利用して頂いたことによって、比較的質の高いプログラムを少ない奉仕者で、効率よく準備することができた。



集会

その中でもワイルドマン裕子姉が上手に英語のテーマソングを日本語に訳して下さるなどの奉仕があったことも評価したい。最後に、(5)お祭りも今まで食事に関して、「焼き鳥」「焼きとうもろこし」等々、手の込んだ品目を多く準備していたが、今回は、極めて簡単に、「トン汁」一品とし、当日教会員がなるべく忙しくならず、その分来会された方々と交わることにエネルギーと時間を向けるようにした。

●ただ、今回の準備の中で、一時ヒヤリとしたことは、中心になって準備を進めて来てくださったワイルドマン姉が、夏期学校開催前一ヶ月余の時点で、突然？に(もっともその前兆はあったが)、ご主人のお仕事のために日本への引越しが決まり、8月初めに米国を発たれたことであった。しかし、同姉の築いてくださった基礎と多くの方々の協力で大変素晴らしい夏期学校とフィナーレとしての「お祭り」が持てた。●結果として、37名の子どもの参加。20名以上の父母(主に母親)の奉仕、合計40名を越える奉仕者。お祭りには、150名以上が集まった。この中には、金恵蓮姉ご夫婦が属しておられる韓国教会のユースメンバーを中心に20名以上の応援(準備、片付け、バンドと賛美、証し)もあった。●しかし、何よりもの結果は、新しく3~4人の子どもたちが親御さんと一緒に、夏期学校以来、毎週日曜学校に出席するようになり、更に一組の母子が日曜礼拝にも参加されるようになったことである。感謝!!



お祭り

●小生が春の訪日の際にご奉仕をさせて頂いた南足柄キリスト福音教会(野木朗牧師)は、WAJ Cの働きを応援す

して頂いている間に、ご両親とも親しくなり、フォローアップへと繋いで行く目的もあった。更に、今年は、(2)プログラムにゆとりを与えるために、これまで昼前までのプログラムであったが、昼食つきで午後1時過ぎまでとした。また、(3)プログラムの効果を上げるために、4才以上と言う参加者の年齢規定を厳格に守り、その代わりに3才以下の子どものためには、ナーサリーを設けて、本プログラムとは



先生方による寸劇



団体ゲーム



お祭り



南足柄からの助っ人

●小生が春の訪日の際にご奉仕をさせて頂いた南足柄キリスト福音教会(野木朗牧師)は、WAJ Cの働きを応援す



礼拝での賛美



ヤードセール奉仕

るために、この夏(8月)、二人の「のぞみ」さんを同教会の支援をもって派遣し



夏期学校の寸劇にて

て下さった。ぞみ」さ会の支援をもって派遣して下さった。●沢野のぞみさんは日本の高校生。杉澤望さんは、現在ランカスター(PA)の大学で学ぶ大学生。●お二人は、礼拝での証し、賛美、夏のヤードセール、夏期学校の準備・当日の奉仕、フィナーレのお祭り、等々で若き力をもって大いに尽力下さった。

しばしのお別れ、派遣!!



ワイルドマン家

●昨年、WAJ Cに転会されて以来、様々な意味で中心のご奉仕をして来てくださったワイルドマン裕子姉が、まず8月の初めにご主人のお仕事のために三人のお子さんたちと共に日本へ移られた。●また、同様に昨年からWAJ Cに参加されたウィット加代子姉も、10月初めに、ご主人のお仕事のために二人のお子さんと共にハワイに引越された。長女の茉莉加さんは、日曜学校においても、中学生で最年長生徒として毎週必ず暗誦聖句を励むなど良き模範を示してくれていた。●ワイルドマン姉とウィット姉のお二人は、今年の総会終了直後、5月頃に、声を合わせるようにして、「コミュニティ・センターを大きな支柱としたWAJ Cの働きの重要性はよく理解した。これから全面的に支えて行きたい。とにかく、祈って前進しましょう」と励まして下さったのであるが、皮肉(?)にも、その直後に、お二人とも、ご主人のお仕事のために移転が決まった。●更に、今年、10月末に、毎週水曜夜の祈禱会の忠実な出席者であった山本弘典兄が、突然、新しい



ウィット家

就職先が決まってオハイオ州に移住されることになった。お一人お一人の上に、新しい地での神様の祝福を祈って頂きたい。



最後の祈禱会の後に

NVA開拓? 宣教の拡大!!



Cornerstone Int. Ch.

●Northern Virginia(以後NVA)への日本人伝道は、私たち夫婦の長い間の祈りであった。また、ワシントンに移って以来8年にわたる私たち祈りの友(後述)との祈りの課題でもあった。●そして、更に今、NVAに住む日本人クリスチャンのある方々の長い祈りでもあったことを知るに至った。●NVAと私たちの住むメリーランド州の一部は、ポトマック川の両岸と言うことで、ハドソンリバーを挟むニューヨーク市周辺地域とニュージャージー州北部との関係に似ている。

●私たちが、NVA開拓の拠点として今回お借りすることになった教会は、同じアライアンス教団の教会、Cornerstone International Churchであるが、私たちの現在の教会から42-3キロメートルで、車で道がすいていれば、40分足らずの距離である(しばしば非常に混雑道ではあるが)。●9月第1日曜日に準備祈禱会を開き、第2日曜日から正式に日曜礼拝と子ども日曜学校を始めた。●毎週の日曜学校には、4、5名から10名ほどの参加者があり、日曜礼拝は大人

●私たちが、NVA開拓の拠点として今回お借りすることになった教会は、同じアライアンス教団の教会、Cornerstone International Churchであるが、私たちの現在の教会から42-3キロメートルで、車で道がすいていれば、40分足らずの距離である(しばしば非常に混雑道ではあるが)。●9月第1日曜日に準備祈禱会を開き、第2日曜日から正式に日曜礼拝と子ども日曜学校を始めた。●毎週の日曜学校には、4、5名から10名ほどの参加者があり、日曜礼拝は大人



初回の礼拝参加者

が10~12名の出席者である。●ほとんどすべての参会者が、国際結婚をしているクリスチャンの方々であり、それゆえに、既に、アメリカの教会に午前中出席している方々である。●しかし、この方々は、日本語での礼拝に心から渴いておられ、日本語で賛美をし、日本語のメッセージを聞きながら、涙を流される姿を見ることも珍しくない。

NVA 日曜学校



●初回から子どものための集会として日曜学校を開くことができたこと、そのために使命を感じて、喜んで奉仕をして下さる方々が与えられていることは何と云う祝福か!!

●教区も、数ヶ月づつの単位での様子と結果を見つつではあるが、支援してくれていることは感謝である。●現在は、WAJCのアウトリーチとして進められているが、将来、独立した一つの教会(4つ目の開拓?)となることも考えられている。神様の導きを祈りたい。●それにつけても、新たに救われる方々が、陸續と起こされることを祈ると共に、フルタイムの献身者の興起、そして、何よりもそのような献身者を生み出す霊的で、献身的な空気が漂い、溢れる教会となるように祈って頂きたい。

チェンジ in ジャパン・オフィス



(竹内ご夫妻、ありがとうございます)

●長い間、WAJC、並びにコミュニティー・センター双方の日本事務所の責任を担って来て下さった竹内祥隆兄ご夫妻が、このたび、ご健康の理由も含めて、この任から退かれることになった。お二人は、「1マイル行くことを求められて2マイル行く」忠実さをもって、この任を果たして来て下さった。心から感謝を申し上げたい。●新しい責任者としての任は、日本に行かれた上述のワイルドマン裕子姉が、先に帰国されている川島光子姉と協力して引き受けて下さることになった。また、このために裕子姉の現在出席しておられる赤坂教会の姫井雅夫先生ご夫妻がご助力くださっていることも心から感謝している。●とかく「コミュニケーション不足」になっていた支援者との間を、小生のメッセージのCDをコピーして送るなど、木目細かなご奉仕をして支えて下さっていた竹内ご夫妻のご奉仕であったが、今後、また、ワイルドマン裕子姉ならではの、新しい日本事務所を通しての展開も期待している。お祈り頂きたい。

2つのスペシャル・イベント



センターのチャペルで

この秋、伝道を主な目的として、二つの特別集会を計画した。●第一に、10月末、シンガー・ソング・ライターである常田美香姉をお迎えした。▶同姉は、ワイルドマン姉(上述)の大学時代の先輩であることもあって、お招きする道が開かれたが、お会いして、共通の知り合いの多いことにもビックリし、感謝もした。▶コミュニティー・センターのチャペルで、また土曜日、更には、2箇所での日曜日の礼拝でご奉仕を頂き、一同、心に響く歌声と歌詞に深い主にある感動を覚えた。●二つ目の特集は、井上薫先生ご夫妻をお招きしたことであった。

以前からこの日を祈りつつ待ち望んできたが、今回遂に実現した。▶東海岸の少しでも多くの地と教会でご奉仕がかなえばと願い、10月末に来米され、栗栖信之



センターのチャペルで比呂子姉



WAJCの礼拝で



家庭集会で井上夫妻

先生の大きな助けを頂いて、ニューヨーク、ニュージャージーの地からご奉仕が始まった。

▶ワシントン入りは、11月11日。その日から18日に離米されるまで、一週間余、家庭集会、コミュニティー・センターのチャペル、祈禱会、学生の集会、国際結婚カップルのつどい、2箇所での礼拝、等々、小さな集会をも厭わず、様々な集会で、合計200名以上の方々に、ご夫妻で、恵みと力に満ちた証し・メッセージの御用をしてくださり、皆大いに励まされた。感謝。

ハーベスト・フェスティバル



上述の二つの特集の合間、11月2日(日)の午後に、牧師宅である我が家で、今年も、恒例のハーベスト・フェスティバルが開かれた。この時節は、

収穫感謝の時期であると共に、アメリカでは、ご存知のように、ハローウィンと言う大きな習慣があり、子どもを中心に日本人家族がとても楽しみにしている。それらの社会的行事・習慣を意識しつつ、福音を伝える大きな機会として、毎年このイベントを実施してきた。今年も、子どもを持つ20家族が集まり、普段は、中々来れない沢山の「お父さん」たちも、大勢見えて、合計65名の楽しい集いであった。家族写真撮影、ゲーム、仮装ショーと共に、みなで賛美をし、「感謝」に関するメッセージを取り次がせて頂いた。



新しい信仰の仲間たち



NVAの子どもたちと

春から川野清兄が、当教会の信仰の仲間として加わって下さった。同兄は、当地域の日本語補習校の校長として赴任して来られた。昔からの長い求道の末、かつてロス・アンジェルズにおられたときに入信された由。帰国後、私のプリンストン、及びニューヨーク日本語教会時代の同労の友、今は日本で宣教師として働いておられるD. キンダーバーター先生の教会に奥様と共に出席しておられた。信徒伝道者の養成学校でも学ばれ、この春に卒業された。キンダーバーター先生の紹介で、当教会に参加されるようになって以来、礼拝の司会、及び、様々な折にメッセージの御用もして頂いている。特に、毎週のバージニアでの夕方の礼拝には、お忙しい中、午前の礼拝、午後の交わりに続いて、いつも奉仕者として参戦してくださっている。また、ハウ・天野和泉姉も、この夏、ご主の新しい仕事の関係で、フィラデルフィアのリー牧師の教会から、ご家族と共に移って来られた。リー先生の教会は、先生の強いリーダーシップの下に、活発で、またよく整った教会であると同っている。万年「開拓教会」のようなWAJCが、少しでも同様に「成長」できるようにと、当教会に来られて間もなくから、同姉は、2才になったばかりの小さいお子さんのいる中、牧師、また、ほかの方々をも励まして、教会、センターのために様々な面で、一生懸命奉仕して頂いてくださる。この他にも、ご主人のお仕事でこちらに来て渡邊美香姉や、一年の交換留学でこちらの大学で学んでいる畑中愛美姉も加わって頂いてくださる。



和泉姉と長男の光慈君

同時通訳ミニストリー再開

●暫く途絶えていた礼拝メッセージの同時通訳が、9月から再開した。上述のハウ天野和泉姉のご主人のジェーンのために、そして、何とかもっと多くの国際結婚をされた方々が、集い易い教会となるために、和泉姉自身と三谷基兄が、毎週交代でご奉仕くださっている。

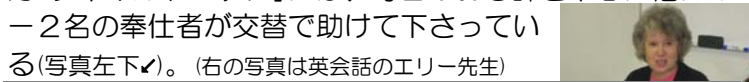
コミュニティ・センター

概括報告



子羊クラブ

●本年初めからの例年に無い帰国ラッシュのために参加者が一時かなり減少したが、新しい方々も徐々に加えられ、参加者数のピークであった昨秋のような数には至らないが、延べ70名余の参加者は感謝である(単発参加者を入れるとこれ以上になる)。●ほとんどすべての方々がクリスチャンではない。その方々に毎週「福音」を日本語で伝えることができるとは何と幸いなことか。●クラスは、各学期によって多少異なるが、英語7クラス、子どもプログラム2つ(英語と日本語)、日本語クラス、韓国語クラス、現地校の勉強を助ける「塾」のようなクラスが週に2回、このほかに、単発・短期のコースとして、韓国料理、韓国折り紙教室、ビーズクラス、ボビンレース、リボンレイのクラス、等々が開かれた。●クラスの人気陰の力「チャイルド・ケア」には、毎日かおる師を中心に他に1-2名の奉仕者が交替で助けて下さっている(写真左下)。 (右の写真は英会話のエリー先生)



クラス & チャイルドケア

●クラスの内容は、前述のごとくであるが、特に新しいクラスとしては、母と子のクラスとして今までの英語でのクラスとは別に、「子羊クラブ」と名前を付けて、子育て講座をも含めたクラスができたことは嬉しいことである。●このために先に述べた天野和泉姉と共に韓国語クラスに出ている一人の婦人がかつて幼稚園の先生をしていたので是非お手伝いをしたいと申し出てくださり、大きな助けとなっている。●また、チャイルド・ケアの奉仕者の中には、韓国人のクリスチャンの方々もいる。また、クラスの生徒さんの中からノン・クリスチャンの奉仕者もおられる。かおる師にとっては、この時間は、子どもたちの世話をしながら、そう言う方々との霊的な交わりと、個人伝道のときともなる。●このプログラムのために、教会内外から20名以上の方々が奉仕して下さる。感謝

チャペル

●センターを通しての伝道は、クラスの先生、チャイルド・ケア・スタッフ等の人格と何気ない言動を通してなされる。しかし、同時に、「チャペル・タイム」のメッセージに大きな比重があることは事実である。以下は、4年以上に亘って英語クラスをベテラン教師として担当し、また英語プログラム全体をコーディネートして来てくださったシート美奈姉が、去る10月WAJCでの礼拝でされた証しの一部である。

■・・・私の生徒さんたちは、チャペルタイムの後、西郷先生のメッセージについて意見を交わします。生徒さんたちの中には、私のクラスに満足しているという理由からではなく、チャペルタイムを楽しみにしているという理由からJCCC(註: Japanese Christian Community Center)に来ています(クラスを楽しみにしていることも願いますが)。よく生徒



チャペル・タイム

さんたちから、メッセージを聞いて慰められたと耳にします。もし、JCCCが存在しなかったら、生徒さんたちはどこでイエス・キリストについて聞くことができるでしょうか。もしかすると、どこかでキリストについて耳にするかもしれません。しかし、JCCCにいるときほど、心を開いて話がきけるでしょうか?・・・■

その他の報告

祈りの友との別れ

過去8年におよぶワシントンでのミニストリーにおける陰の最大の支え、特に、私たち牧師夫婦にとっては、個人的にも常に力の原動力であった祈りの友、ダンとダイアン・シュック夫妻が、この夏、神様の摂理のうちに、ダンの仕事関係で、当地から車で7時間ほど離れた、バージニア州に引っ越した。ダンとダイアンは、有名なコンピューター・ソフトの会社の当地域における副社長の地位にあり、極めて多忙なスケジュールであるにもかかわらず、彼らはこの8年間、毎週金曜日午後4時半~6時、できる限り時間をとって、私たちのシドロモドロの英語での働きの報告を真剣に聞き、一緒に祈ってくれてきた。この真摯で熱い祈りの交わりを通して、私たちが、有形無形にどのくらい助けられてきたか分からない。勿論、今も、Emailで連絡を取り合いながら、祈りは続いているが、共に顔と顔を合わせて、近しく語り合いながら、同じ場所で、共に励まし合いながら祈る「祝福」が懐かしい。しかし、摂理のうちに与えられたこの新しい状況下で、私たちは、今、奉仕における新しい祈りの生活・姿勢を求められていると信じる。シュック夫妻と私たちのために祈って頂きたい。



ダンとダイアンと会食

林キジウ・金ヘリオンご夫妻



飛行場にて

●金ヘリオン姉と林キジウ先生ご夫妻から、9月末頃のある晩、突然、「これまで奉仕して来られた韓国教会を、急ではあるが辞任することになった」旨のお電話を頂いた。以来、二ヶ月間、住まいを共にしつつ、親しい交わりのうちに、思いがけない多くの祝福を個人的にも、また家族としても頂いた。●更に感謝すべきことは、お二人とWAJCのメンバーたちとの交わり、お二人の証し・メッセージを通して、神様が多くの祝福の業を、一人一人の心の中に始めて下さったことである。どうかその「結実の継続」を祈って頂きたい。●お二人は、この間、私たちの団体を通して「就労ビザを取得する」、また、「学生ビザを取る」、等々様々なオプションを考え、弁護士、学校の責任者の方々にも相談を重ねたが、道が中々開かれなかった。●そのような中、お二人は、最終的に、神様の導きの道は別のところにあることを確信されるに至り、12月9日(火)に離米、一旦韓国に戻られた。●お二人は、今後、韓国で準備しつつ、日本における日本人宣教の道が開かれることを目標にして祈っておられる。日本は、ヘリオン姉が信仰を持たれた地であり、13年にも亘って学ばれた場所であり、ヘリオン姉が仕事を見つける可能性も高いところ、等々のメリットがあるが、何よりも神様の導きを祈っておられる。

国際結婚カップルのつどい

●ある日本人・米国人の国際結婚をされた一組のカップルが中心となって、この地域に住む他の国際結婚カップルに呼びかけ、超教派・超教会での初めての「国際結婚カップルの



集い」が我が家でもたれた。子どもたちも一緒に12家族が集まり、折りしも我が家に上述の井上薫ご夫妻がおられたときでもあって、お二人の証しを聞くなど、英語での交わりと共に幸いなひと時が持たれた。●前号にも述べたように、もし私たちのミニストリーが、短期に米国に住まわれる方々の単なる「伝道センター」でなく、長期的視野に立った「教会」の建設であるなら、言語の壁を乗り越えつつも、国際結婚のカップルとそこご家族へのミニストリーは、今後、少なくとも、この地においては、益々大切な位置を占めてくるものと思っている(現に、NVAでの新しい礼拝に集い始められた方々のほとんどが国際結婚をしている方々である)。続いて神様の導きと祝福をお祈り頂きたい。

東海岸合同修養会



講師の中川師と

夏の終わりのレーバーデー・ウィークエンドと呼ばれる祝日を挟んだ週末に、2泊3日で米国東海岸地域・日本人教会の「合同修養会」がも

たれ300名以上の参加者を得た。今回が第二回目となるが、主講師にはハーベスト・タイムの中川健一先生をお迎えした。同師は、参会者に聖書の御ことばを諄々と説き聞かせ、打ち込んでくださり、一同大いに扱われ、主の弟子となるべく励ましを頂いた。参加・主催教会が、主にニューヨーク、ニュージャージー州であり、会場の宿泊施設が、私たちのところからは車で7時間ほど離れていることもあって、WAJCからはユースを含めて、9名の参加者であったことは少し残念であった。

さいごう・ファミリー・れぽーと



●しのぶ：6年間余勤めていた保育園が「突然」、今年5月末をもって閉鎖して以来、仕事を探しているものの、まだ見つからない現状である。しかし、この間、ほぼ毎日、コミュニティー・センターで、チャイルドケアの働きを補助してくれていることに感謝している。親としては、やはり、どこか保育園の助手のような仕事が彼女には良いかと思って祈っている。●宣子(エスター)：既報のように、現在も、なお、フィラデルフィアに留まり、小さな「ガーデニング・カンパニー」に勤めて「肉体労働」しているが、冬になり、その仕事も一時中断。春までレストラン等での仕事をして行くようである。将来的には、看護師になることを考え、真剣に学校に戻ることを祈っているようである。●かおる：日曜・週日の集会奉仕(9月からはNVAでの集会も加わった)、また、月～金曜日のコミュニティー・センターのチャイルド・ケアと様々な連絡事務、週に数日個人的なピアノ教授、ご高令でアルツァイマーのご婦人のお世話、等々相変わらずの忙しさ。少し交通整理が必要か？(しのぶも食事の準備等、家事手伝い

もするようになっていたことは感謝)。●私たち家族の霊的・健康的・経済的な必要のためにお祈り頂きたい。●家内と私は、2週間を挟んで、それぞれ10月の終わりと11月の初めに、遂に日本では「還暦」として記念する60歳の誕生日を迎えた。今更言うまでもないが、「唯々主の恵みと憐れみのゆえ」と言うほかない。教会の方々に特別に祝って頂いたことに深く感謝している。



→→→→→巻頭言続き(p.1から)→→→→→

●少し前のことになるが、信徒としてある教会に忠実に仕えている知人が、その教会に特別講師として来られた台湾の有名な牧師クリストファー・サン師のメッセージについて同教会の機関紙に以下のような寄稿をした。「聴くたびに『これぞ本物』という感を強くします。サン先生のメッセージには、聴衆の心をつかみ和ませる前置き、心に染み入る証しや例話、深い精神の反省を促す金言、・・・」。私は、友人の文章をここまで読み進んだとき、当然のように、彼がこのような点でサン師のメッセージを称えようとしていたと思った。なぜなら、メッセージに関するこれらの特質は、韓国、日本、米国を問わず、現代のほとんどの説教家たちが、夢中になって求めているものだからである。しかし、意外にも彼は、次のようにこの文章を続けた。「サン師のメッセージには・・・(前掲文)・・・といった『装飾物』は一切ありません。オブラートなしの、御言葉という『堅い食物』を直球勝負で投げ込んでくれます。そこに戸惑いや抵抗を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、説教者が、みことばそのものを、ただ御霊に満たされて語っているの、聞き手の理性や感情をこえて、霊そのものに直接届きます。心にはなく、魂に切り込むと言ったらよいでしょうか。」と。ここにも「本物」を知っており、「本物」を恋慕している信徒がおられた。嬉しくも、私を揺さぶった。●私たち夫婦も、遂に還暦。「憎まれっ子世にはばかる」であるから、これからも、まだまだ、働くつもりである。しかし、同時に、これまでの人生と奉仕をレギュラー・シーズン中の「リーグ戦」に譬えるなら、今後の奉仕は、「プレイオフ」ゲームのように感じている。そして、この「一回一回が勝負」の「最終戦」を如何に戦うかを、神様に祈っている。●それは、今までの経験を踏まえて、「方策」をどうするかと言う問題ではなく、むしろ、携わっているご奉仕の「本質」と「目的」を見極めつつ、原点に戻って「本物」を追求し、実践することだと思っている。●恩師の語った「本物」のクリスチャン。友人の語る「本物」の伝道者。「本物」を意識できる信徒。「ほ・ん・も・の」だけを追求したい。そのために、まず自らが「本物」のクリスチャン、又、伝道者として生きることにより再献身し、次に、「本物」のクリスチャンの溢れる教会建設を目指してひたすら走りたい。「勇気」を要すると思っている。祈禱のご支援を頂きたい。

Merry Christmas & A Happy New Year

旧年中のお祈りとご支援を心から感謝します。新年も又宜しく! (HPでメッセージ、他諸活動ご覧ください)

「西郷純一・かおるを支える会」サポート

●日本からのご支援：(銀行)UFJ川越支店 (名義)西郷純一かおる師の会 (口座)普通 3818778

●日本国内の連絡先：馬場(〒350-1113 埼玉県川越市田町 17-47) ●同電話・ファックス：(0492)41-7048

●米国：西郷純一・かおる(13008 N. Commons Way, Potomac, MD 20854 ●Tel/Fax: 240-314-0249 ●EM: saigo@wajc.org / junsai@comcast.net

WAJC への日本からのサポート

- 銀行：三井住友銀行銀座支店(026)
- 口座：ワシントン・アライアンス日本語教会・普通・7591975
- WAJCのHP：<http://www.wajc.org> ●日本の連絡先：ワイルドマン裕子
- 同上電話：03-3224-6967 ●同上Email：yukowildman@yahoo.com
- 同上郵便宛先：107-0052 東京都港区赤坂 6-9-6 赤坂教会内

コミュニティー・センターのために

- 振り替え口座：「CCP日本事務所」00100-5-277547
- 郵便口座：「CCP日本事務所」10060-95110331
- 銀行口座：三井住友銀行福生支店(697) 「CCP日本事務所」普通 7342907
- 日本事務所(代表)：ワイルドマン裕子 (連絡先等詳細は、WAJCと同じ)
- HP：<http://www.community.wajc.org>